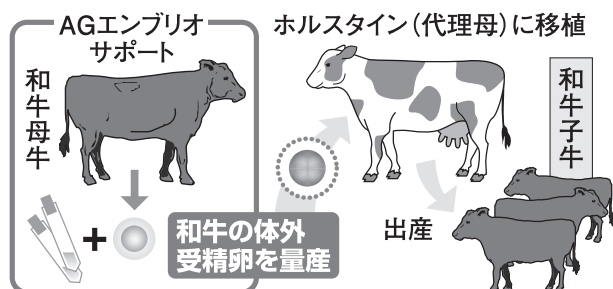


川西に牛体外受精卵施設 今月着工 8月完成 帯広のAGエンブリオサポート

2017年5月2日

牛の体外受精卵の生産、研究を行うAGエンブリオサポート（帯広市、長宗純一社長）は、帯広市川西町に体外受精卵培養センターを建設する。敷地内に設ける牛舎と試験場で新鮮な受精卵を量産し、和牛子牛の増産につなげる。同社によると、体外受精卵の生産施設としては国内最大になる。



国内最大、和牛子牛を増産

和牛生産では、雄牛の精液を雌牛に人工授精して子を産ませるのが一般的。ただ、繁殖農家の離農などで母牛が少なくなり、子牛も減っている。そのため雌牛の卵子を取り出して体外受精した受精卵を、乳牛のホルスタインに移植して「代理出産」させる手法が増えている。

同社は、家畜の精液や受精卵を製造販売するアニマルジェネティクスジャパン（三重）のグループ会社として、2015年に設立。牛の体外受精卵を生産し、管内で肉牛を生産する大規模農場などに販売している。

本州では和牛の生産基盤が縮小し、和牛肉の流通減、高騰につながっている。和牛の体外受精卵の需要は増えているが、供給が追いついていない状況で、新たに生産施設を建設することにした。

同市川西町の敷地2.3ヘクタールに、和牛雌牛100頭を飼育する牛舎と、培養室などを備えた試験場を建設。生きた雌牛から卵子を採取する最新技術を用い、新鮮で受精率の高い体外受精卵を大量生産する。投資額は約2億円。今月中の着工、8月の完成を計画する。

管内では体内受精卵の生産施設はあるが、体外受精卵を専門とする施設はなく、新施設は国内では最大。受精卵の生産数は現在の月1000個を10年以内に1万個に増やす計画。管内の農場を中心にするが、将来的には松阪牛などを育てる生産者への販売も検討している。

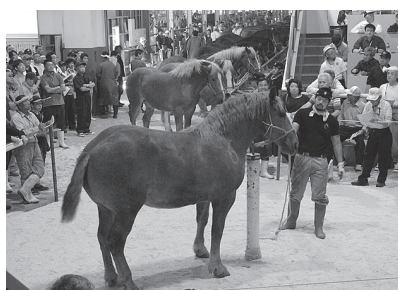
長宗社長は「牛舎と試験場を隣接させ、効率的、安定的に受精卵を生産、販売できる。十勝の生産者に育ててもらった技術を社会ニーズの和牛増産に生かしたい」と話している。

農業ガイド1118号

2017年8月5日

農用馬高騰続く ホクレン市場価格 2016年の1.7倍

【音更】全国最大規模の馬市場（ホクレン帯広支所、十勝管内J A主催）が7月26日、町内のホクレン十勝地域家畜市場で開かれた。出場頭数の大幅な減少や好調な肉需要に支えられ、昨年の同市場の価格を大幅に上回る高値取引となった。



昨年を大きく上回る高値の取引となった馬市場

全道各地から農用馬（94頭）、小格馬（177頭）の合わせて271頭が出場し、農用馬（77頭）、小格馬（94頭）の計171頭が取引された。

主体となる農用馬の平均価格は、高値を記録した昨

年の91万6000円をさらに67万円も上回る158万6000円（最高216万5000円、最低53万4000円）となった。

小格馬は平均価格27万7000円（最高70万5000円、最低5万3000円）で昨年より1万3000円安かった。

市場には全国から大勢の購買者が訪れ、出場馬の体重や体格など状態を見ながら活発な取引が行われていた。

肉需要の高まりも 生産数減

市場関係者は「市場価格が回復し、昨年も高値だったが、今年は景気回復に伴う生肉消費の拡大などでさらに高値取引になっている。農用馬の生産頭数の減少が止まらず、市場への出場頭数も減っていることが高値取引の原因になっているのでは」と話していた。